

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800039		
法人名	医療法人 十喜会		
事業所名	グループホーム向陽		
所在地	愛知県碧南市中山町6丁目10番地		
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果市町村受理日	平成24年5月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は医療法人であり、病院、老人保健施設、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しております。本人や家族が望めば、責任を持って最後までお世話させていただきます。安心してグループホームに入居して頂きたいです。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosisp/infomationPublic.do?JCD=2392800039&SCD=320&PGD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五町2番5		
訪問調査日	平成24年3月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>介護生活の延長であると考え、いままでの家庭の延長での支援、地域との繋がりを大切に、施設でなく、「ここ」に住んで幸せと感じられるケアを目指し、職員の意識、運営方法等の工夫と、意欲がある。調理は、ユニット毎に行い、メニューも別にし、前日に決める等、入居者の希望、状況を取り入れ決めている。又、刺身などは、直前に買うなど、細かな配慮がある。医療機関のグループホームである特徴を生かし、連携の中で、安心して生活できる体制がある。広いリビングを生かし、馴染みの家具、ソファ、落ち着ける居場所作り等、入居者が落ち着け、なじめる空間作りがある。隣接する、デイサービスとの、共同行事や、日常の交流があり、入居者には、適度な、刺激や、交流がある。職員の研修等にも熱心に取り組み、経営母体内研修など、スケールメリットを生かしている。家族からも、訪れやすい、職員や、介護計画の説明等、評価が高い。新設の施設ではあるが、母体との連携、地域への溶け込み、入居者に合わせた支援等今後に期待できる施設といえる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「本人の意思と家族の思いを充分尊重する施設です。」	好きな物を随時食べられるように、居室への持ち込みを可能にしたり、入居前から続いている毎日の通院の支援など、今までの暮らしの延長線上の生活であるよう心がけている。職員玄関に理念を掲示し、ミーティング時に毎回確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板を入居者と一緒に届ける等している。	町内会に所属し、管理者は、立ち当番やクリーン活動参加等を利用者と共に行っている。地域の盆踊り、子ども神輿行事に参加したり、保育園、小学校とも交流がある。ホームの行事(夏祭り、和太鼓演奏)には近隣住民を招き、親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所開設時、説明会を開き認知症の勉強会をおこなった。また見学や認知症の相談を受けるなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での助言を職員に伝え、改善すべきところは行っている。	開設してまだ一年余りと、まだ新しいホームのため、家族からの要望の他、車イス事故予防の手順書作成の提案など、整っていない体制に対する指摘への受け入れがある。不参加の者に、議事録を配布し、周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことがあれば担当者に回答を得たり、情報を求められたら、協力できる範囲でしている	運営に関して、市の高齢福祉課に相談し指導を受けたり、情報提供に協力をするなど、関係を築いている。市が開催する、口腔ケアの研修会や、ケアプランについての研修会に参加。地域包括支援センターとも情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束になうようなケアはしていない。	法人内の老人保健施設での、身体拘束の研修に、職員リーダーが参加をしている。独自のマニュアルを用意し、年2回職員へ研修をし、共有している。言葉による拘束にも気を配っており、誘導のない、入居者の気持ちに伝えられるような声かけを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員二人が法人内の拘束廃止委員会に入って勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は時折勉強会に行ったりしているが、職員はまだ行っていない。入居者で二人が制度を利用しており、後見人がいる事は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族の要望は常に耳を傾けている。家族に面接後気になる点はなかったですかと尋ねるようにしている。	行事や面会時に、職員にも情報収集を呼びかけ、要望を聴いている。月に1度は来訪する家族が多く、機会が多くある。家族アンケートからは、ホームへの信頼度が高いという結果が出ている。ホームに入居したことで、利用者と家族の関係が向上した例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月に1回設けている	各入居者担当者は、その人から得た、情報や気付き、意見を管理者に直接伝え、申し送りノート等で、他職員と共有している。ミーティング時に、ケア方法などを意見交換し、記録している。その他、待遇改善等の要望は事務方へつたえることが出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会月1回第1月曜日6時半より		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の入会や碧南市の勉強会への参加をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上でできる事に参加してもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の最近の状況を細かく伝え、今までの本人の様子など聞いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院、美容院やスーパーが途切れないよう支援している	情報収集を常にしよう心がけている。以前の居住地域へ行くと、顔見知りの人に会い、喜ばれるため、買い物先に、入居者の馴染みの土地を選ぶことがある。住所変更をした入居者の年賀状の支援をしたことで、ホームへ面会に訪れた人もいるなど成果がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に食事の片づけやせんたくをいっしょにたたんだりする場面をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は特にないが、入院すれば様子を定期的に見に行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には担当職員が決まっており、本人の意思をくみ取るよう努力している	担当者は、誕生日にはその人らしい誕生日が迎えられるよう企画をしている。過去に法人のグループ施設を利用し、入居以前が把握しやすい入居者も多い。入居時の聴きとりの他、生活リズム表で一人一人の行動を記録し思いや意向を汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに目を通したり、家族より直接話を聞くようしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の可能性を検討している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している	ケアプランは4か月に一度の目安だが、必要があれば随時、利用者の状況を把握し検討している担当職員と職員、管理者とで見直される。作成されたケアプランは、書類に綴じる前に職員間で共有し、確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	4か月に1度見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で病院受診、文化会館作品展、図書館に出かけるなど		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連絡を行っている	協力医は法人の加藤病院であり、週に1度の往診を受けている。かかりつけ医との、医療連携に関する情報提供や通院の支援は管理者が行っている。管理者は、個別に往診記録を管理しており、職員に把握させるためカレンダーを活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡は取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と家族と話し合いの場をその都度設けている	母体が病院なので、いざという時は、救急の受け入れ体制がある。重度化した場合は、病院への転移支援を行うが、それ以前の段階で、家族、医師、管理者で、状態が変わる都度、家族等との話し合いの場を多く設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化しているが実践力を身につけているかと言われると不安		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事や地震を想定した避難訓練をしているが、まだまだに身につけていない。不安である	緊急時には、すぐに職員が駆けつけることが出来る。夜間想定防災訓練、消化器訓練等を実施した。今後、防災頭巾を揃える事になっており、緊急リストを各電話脇に備え付けている。職員から人工呼吸講習の受講希望が出ている。	非常時に、具体的に今、何が必要かを話し合い、周辺地域住民、団体との協力体制の構築等一層の充実を期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応してるが、時々言ってしまった言葉で気分を損ねてしまう事があり、反省する事がある。	居室には内鍵があり、入居者が自由に施錠出来る。職員が入る際には、一言声をかけており、居室は入居者の自宅、という意識でいる。教師だった入居者に対しては、先生へ話すようにする等、それぞれに言葉や話し方を選び、個人の誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらが決めないように、心掛けてはいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日中寝たい人の希望には添えないのでどこまで起きていてもらうかがいつも迷う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までどんな髪型にしていたかが分からないので迷う事がある。以前の写真があたりがいいと思う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも家事に参加してくれる人が決まってしまいうため負担にならないか心配になる	間食や水分摂取量をその都度把握し、食事の量や内容を、場合によっては変更調節をし、入居者本人の希望や体調に沿うよう対応している。台所のシンクは職員用と入居者用と分けて用意しており、作業に参加しやすい様、構造上の工夫が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いの把握や男女の食事量等考えてしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夜はしているが、昼食後やおやつのは抜けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自立度に応じ、声掛けや介助としてオムツの人がいるが、尿意便意を訴えた時はトイレで座ってもらっている。	夜間、トイレ誘導の必要な入居者には、声をかけているが、寝入りこんでいる入居者には、そのまま休んでもらっている。その場合はパッド交換で対応。オムツ交換の必要な入居者には、時間でなく、行動を目安にして交換をしている。トイレでの排出を促すため、チェック表等から排出パターンを掴み声かけなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂り得れたり自然には威厳があるよう心がけている。下剤を定期的に使用している方が一人		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後からの入浴時間と一応なっているが、午前中に希望があれば対応している。	入浴前にバイタルチェックをし、希望の順序で1日平均4人ほど入浴。朝や「今から入る」に対応出来るよう、タイミングを逃さず希望に沿う支援を心がけている。2～3人に1度で湯の交換、マットは濡れたら交換、湯の張り替えの都度の清掃、浴室、脱衣所の室温管理など配慮がある。入浴チェック表等で把握がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	鍵をかわないと安心できない方には、鍵をかってもらい安心して寝てもらおう。昼寝の習慣がある人は昼寝をしてもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車椅子に乗っている人でも何かできる事を探し一人一役を目標にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたい人には個人的に対応している。また誕生日に孫の店や娘の店などに行ったりした。他の人も行きたいところを聞き今後出かけていきたい	敷地内の鯉の餌やりと近所の散歩が日課となっている。入居者には、一人で毎日散歩に行く人、チョコレートを買に行くのを楽しみにしている人、お店で大判焼とコーヒーを希望する人等があり、それぞれ個別に支援している。初詣、花見、水族館、じょうざんの里など行事(2月1回程度)での外出もある。個別、全員応など工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を持ってチョコレートを買うに行かれたりする人はいいが、自分の財布を持っていても、買い物に行くと食事もおやつも出るので何もいらないとされる。支援は心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が娘(息子)のところに掛けたいと言われれば見守りの中、かけている人もいるが、「迎えに来てくれるように掛けておいてほしい」と言うだけの人もいる。家族が来てくれるので、あまり言われない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音には気を使っている。共有のトイレでは換気扇をいつもつけっぱなしにしてある。感染予防でハイターを使用しているが臭いがきつくないように気をつけている。アロマオイルを使用する事もある。	自宅で使用していたソファや食卓を共用空間に持ち込み、自宅と変わらぬ暮らしを実現している。広々とした空間により、移動が自然と運動になる一方、季節の飾り付け、座敷でのこたつを取り入れるなどして入居者に広さによる孤独を感じさせないよう配慮がある。健康器具が設置されている。室温、採光、音量など、適時の調節がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをとこどこに置き、居心地の良い場所をつくっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を置いたり、家族の写真を置いたり、今まで本人が家で暮らしていた環境を考慮した部屋を心がけている。	毎朝、利用者と共にモップかけの清掃をしている。自宅から持参した家具や、装飾品を持ち込み、その人らしい居室になっている。各部屋に、洗面所が設置されているため口腔ケアは自室で済ませる人が多い。室温の調節は22から3度を目安にし、状況に合わせて行っている。ナースコールは、居室の入口でつく。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った歩行時の補助具を使用し、安全に使用できるよう、見守り		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	56	入居者より「つまらない、楽しい事はないですか」と言われた。	個々の好みや趣味を知り、本人にとって楽しい時間が持てるようにする。	①担当の職員が中心となり本人に聞いたり、関わりの中から好みや趣味を見出す。②必要な物品等揃え、一度行い本人の様子を見る(無理強いしない)③職員全員で試した結果をを話し合う	6 ヶ月
2		入居者に対し「ちゃん」付けで呼ぶなど、言葉使いが乱れてきたと感じる事がある。	入居者を敬い関係性に応じた言葉使いにする。(家族など誰が聞いても不快な気持ちにならない言葉)	①原点に戻り、「ちゃん」ではなく「さん」とし尊重する事をする気持ちを取り戻す。②職員同志が注意し合う。③命令形にならないよう、特に注意する。④ミーティング時、評価を職員全員で行っていく。	4 ヶ月
3	49	外出の多い人とそうでない人がいる。特に車椅子の方は少ない。	天気の良い日は一日一回外へ出掛ける事ができる。	①花の水やりや鯉の餌やり、短いコースでの散歩を行い、記録に残しておく。②車椅子の方が外出の機会が少ない事を特に意識意識し、外出を行う。	6 ヶ月
4					
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。